

令和6年度「少年の主張」全道大会

社会に向けての思いや未来への希望を堂々と発表

昭和54年の国際児童年を記念して始まった「少年の主張」。

今年は、道内275校から約2万3千人の応募があり、この日の全道大会では、各地区代表の16名がそれぞれの主張を力強く発表しました。

厳正な審査の結果、石狩地区代表の数馬 灯里 さん（恵庭市立恵み野中3年）が最優秀賞となり、北海道代表として北海道・東北ブロックに参加します。



自分の思いを会場に届ける発表者

受賞者のみなさん

*最優秀賞・優秀賞の4名には「北海道コンサドーレ札幌賞」を贈呈

最優秀賞（北海道知事賞）

数馬 灯里 さん 「未来に咲く今」
石狩・恵庭市立恵み野中3年

優秀賞（北海道教育委員会教育長賞）

鎌田 千弦 さん 「とくべつなふつつ」
札幌・札幌市立平岡緑中学校2年

優秀賞（北海道PTA連合会会長賞）

尾坂 空音 さん 「しあわせの形」
空知・岩見沢市立明成中学校1年

優秀賞（（公財）北海道青少年育成協会会長賞）

藤原 拓也 さん 「未来の舵取りを担う」
釧路・鶴居村立鶴居中学校3年

奨励賞 ※当日発表順

細川 優菜 さん
札幌・札幌市立日章中 3年
光枝 美優 さん
宗谷・礼文町立香深中 3年
貝島 優羽 さん
後志・倶知安町立倶知安中 3年
山本結千花 さん
十勝・浦幌町立浦幌中 3年

篠田 涼帆 さん
渡島・長万部町立長万部中 3年
河本さくら さん
根室・別海町立上春別中 2年
白井遙ノ椀 さん
胆振・洞爺湖町立虻田中 3年
糸畑 雫 さん
檜山・江差町立江差北中 2年

高林 恵 さん
オホーツク・遠軽町立南中 3年
平田 琴音 さん
日高・様似町立様似中 3年
田村里々香 さん
留萌・遠別町立遠別中 3年
大串 雪花 さん
上川・北海道教育大学付属旭川中 3年



「北海道コンサドーレ札幌賞」を授与したドーレくん

「少年の主張」
全道大会 動画公開中!!



公開期間 ~10月20日
まで

最優秀賞 (北海道知事賞)

「未来に咲く今」

北海道恵庭市立恵み野中学校3年

かずま あかり
数馬 灯理 さん



皆さんには、夢や目標はあるだろうか。私には今のところ、具体的に夢と呼べるほどのものはなく、そういった夢を持つ友達を見ると、焦りや不安を感じていた。でも、そんな気持ちを和らげてくれた存在がいる。それは意外にも兄であった。

私には、今年成人式を迎えた兄がいる。高校卒業後、上京してすぐに働き、社会人三年目になる。兄は勉強が苦手、さらに反抗期で、学校も行ったり行かなかったりした時期があり、両親や担任の先生から卒業を危ぶまれるほど心配されていた。そんな兄ではあったが、あるときファッションに興味を持ち、高校二年生ごろからアパレル業界で働きたいと言うようになった。しかし、高校にアパレル業界からは求人がないことを知ると、高校三年生の夏休みに、北海道から独り飛行機に乗り、東京・大阪で開催されていた高卒対象者の合同企業説明会に参加するなどしていた。残念ながら、コロナ禍の影響もあったのか、アパレル業界の求人はそこにも来てはなかった。兄は希望していた職種ではなかったものの、いくつか求人を見つけ、最終的には配送業に就職した。結局、兄の夢は叶わなかったのだ。そんな兄を見て、私は思った。「飽きっぽい性格の兄だから、希望職種じゃない仕事なんて長続きしないだろう」と。しかし、結果は意外なものだった。持ち前のコミュニケーション能力と、効率の良い仕事ぶりが評価され、この春からは一つの店舗を任せられるまでになったのだ。学生時代は劣等生のレッテルを貼られ、希望する職種にも就けなかった兄なのに、今は職場から高い評価を得て、配送業という仕事に誇りを持ちながら生き生きと働いている。今思えば、兄は誰の助けを借りるでもなく自ら行動し、すべてを自分の意思で決断していた。当初の希望が叶わなくても、置かれた状況に文句を言うわけでもなく、そこでやりがいを見出し、自分で輝くための努力をしていたのである。

そんな兄を見ていて思い出した言葉がある。SNSで見かけた「置かれた場所で咲きなさい」という言葉だ。私は今までこの言葉を、辛くても我慢してそこで咲きなさい、という意味だと思っていた。

でも、違うのではないだろうか。この言葉は、兄のようにどんなところに置かれてもやりがいを見出し、自分次第でいくらでも輝くことはできる、という意味なのではないだろうか。

一年に数回兄が帰省すると、母と楽しそうに仕事での出来事について話している。私は、今まで夢や目標をなんとか見つけようと焦る気持ちでいっぱいだったが、無理に夢を見つけなくても、その時その時に置かれた状況を自分の中で出来る限り楽しむことができれば、それでいいのではないかと考えるようになった。私はそう思うことで、「未来」だけではなく「今」を大切に、どう楽しむかをいつも考えている。

私たちはこれからたくさんの壁にぶつかり悩むことがあるだろう。必ずしも自分の希望通りになるかどうかは分からない。でも、いつだって私の人生の舵を切るのは私だ。兄のように、どこにいてもその場所の良さを見つけ、精いっぱい楽しめるような豊かな人生を、この先歩んでいくために、どんなことでも挑戦し、積極的に取り組めるような主体性を持って行動したい。

幼少期のころは、

「どうせ俺なんて……」が口癖だった兄。

でも今は違う。

「大人は楽しいぞ、どこにいても、何をやっても。」

こう言い放った兄の笑顔は自信に満ちていた。